

題目：成功者模倣による協力の拡がり：実験による検討

氏名：折懸 海輝

指導教員：竹澤 正哲

人類の大規模な繁栄の理由の一つとして、協力行動が挙げられる。協力行動とは自分がコストを払って相手に利益を与える行動であり、人類においては血縁を超えて大規模に営まれる点に大きな特徴がある。しかし、このような大規模な協力行動は必ずしも直接的な見返りがあるわけではなく、搾取される可能性も孕んでいる。この点において、人間の協力行動は、個人にとっては非協力を選択することが合理的だが、全員が非協力をとると全体として全員が協力する場合よりも利益が得られなくなるという社会的ジレンマの構造を持っている。このような状況において協力行動がここまで拡散した理由について、さまざまな研究が行われてきた。血縁淘汰や互惠的利他主義、間接互惠性、利他罰などが理由として考えられてきたが、それらの説明では不十分な点があった。そこで、文化的集団淘汰による説明が試みられた。このプロセスとしては、戦争、移住、模倣が考えられている。これまでの研究の多くは戦争を前提とし、移住や模倣を原因とする集団を超えた文化形質の伝達はほとんど検討されてこなかった。しかし、戦争が人類の進化や協力の進化の要因として必要不可欠であったとは考えにくい。そこで本研究では、社会的ジレンマ状況において外集団模倣による協力行動の拡散が見られるかを実験室実験によって検証した。実験は二つのブロックに分かれており、第1ブロックと第2ブロックの間に自集団より利益を上げている協力的な他集団の利得と行動を参照する他集団情報表示条件と、自集団の利益と行動のみを参照する他集団情報非表示条件の二つの条件に分かれていた。参加者は4人集団を形成して繰り返し罰なしの公共財問題ゲームをプレイしたが、第1ブロックでは参加者は架空のエージェント3人と集団を形成し、第2ブロックでは実際の参加者同士で集団を形成した。実験の結果、他集団情報表示条件において情報参照後に貢献量が増大した。これにより、協力行動は模倣によっても拡散することが示唆された。